

令和元年7月10日

県木協だより

編集発行 宮城県木材協同組合
仙台市青葉区東照宮一丁目 8-8
TEL 022-233-2883
FAX 022-275-4936
E-mail:miyagi_wood@waltz.ocn.ne.jp
URL:http://www.miyagi-wood.jp/

県木協総会が開催

―新理事長に千葉基氏―

令和元年度通常総会が五月三十日「ホテル白萩」において、組合員八一名が出席し、開催されました。

理事長挨拶に続き、九名の方々の優良職員表彰が行われ、来賓の宮城県水産林政部小杉次長、宮城県議会只野副議長、仙台森林管理署米田署長から祝辞が述べられました。

その後、小野寺副理事長を議長に選出し、平成三十年度の事業報告と決算関係、令和元年度の事業計画と収支予算、定款の一部変更などの議案を審議し、原案のとおり可決承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選では理事長には新しく千葉基氏が選定されたほか、三人の新任理事など別掲のとおり、役員に異動がありました。引き続き、令和元年度宮城県木材産業政治連盟の通常総会が開催され、同様に可決承認され、及川副理事長の閉会挨拶で終了しました。

佐藤理事長 挨拶要旨

「昨日、前理事長の亀山征弘様が長年にわたる木材業界への功績によりまして、叙勲を受けられました。令和になって最初の叙勲であり、また本組合関係者として、二十二年ぶりです。誠に、おめでたい限りです。さて、最近でも屋久島の豪雨や北海道などの高温と、記録を塗り



替える異常気象が続いております。そうした中、身近な温暖化対策として、私たち森林・林業・木材産業に対する、一般市民の関心と期待はますます高まっております。国においても、まさに本年度から森林環境譲与税が始まり、川上の森林整備や川下の木材利用の促進が見込まれます。

本県の平成三十年の素材生産量は六十一万四千立方メートルと、昭和五十五年以来の六十万立方メートル越えとなりました。先人の努力による資源の充実と合板などの需要拡大によるものです。しかしながら、現在の山元立木価格は昭和五十五年当時の二割弱で、製品

| 役職 | 氏名 | 所属 | 摘要 |
|------|-------|-------------|-------|
| 理事長 | 千葉 基 | (株)チバミン | 前副理事長 |
| 副理事長 | 米澤 光秀 | (有)米澤製材所 | 前監事 |
| 〃 | 及川勝一郎 | ヤマモト木材(有) | |
| 〃 | 小野寺邦夫 | 丸平木材(株) | |
| 専務理事 | 佐藤 好昭 | 員 外 | |
| 理事 | 村井 勝 | (株)村井林業 | 新任 |
| 〃 | 渋谷 隆 | (株)渋谷木材店 | |
| 〃 | 亀山 武弘 | 宮城十條林産(株) | |
| 〃 | 和泉 一昭 | (株)グリーンハウザー | |
| 〃 | 佐藤 豊彦 | 黒川森林組合 | 前理事長 |
| 〃 | 高橋 勝行 | (株)タカカツ建材 | 新任 |
| 〃 | 高橋 和宏 | (株)仙北製材所 | |
| 〃 | 高橋 昭浩 | (有)マルウ木材産業 | |
| 〃 | 及川 明 | (株)及川製材所 | |
| 〃 | 岩淵幸嗣郎 | (株)岩淵製材所 | |
| 〃 | 日野 正勝 | (有)日野製材所 | 新任 |
| 〃 | 小山 章宏 | (株)小山材木店 | |
| 〃 | 奥津 文男 | だるまチップ工業(株) | |
| 〃 | 松林 仁志 | 松林商事(株) | |
| 〃 | 中川 尚仙 | 中川木材(株) | |
| 監事 | 庄子 富雄 | (株)仙台木材市場 | |
| 〃 | 小泉 幸彌 | (株)三善材木店 | 前理事 |

価格も低迷しており、木材業界は厳しい環境にあります。厳しい中であつて、CLTなどを使った中高層建築や住宅以外の建築物での木材利用の実例が増えてきているのは期待が持てます。

組合としては、これまで復興住宅等への安定供給を第一に取り組んでまいりましたが、これからは「伐つて、使つて、植えて、育てる」という持続可能な循環利用システムの確立を目指して、木材利用拡大により一層、力を入れて行きます。この取組を進める上での課題の一つに人材の育成確保があり、新規就業支援やCLT等の木材関連の研修を引き続き行います。

そうした中、本日九名が優良職員として表彰されます。誠におめでとございます。皆様が社業発展のため長年にわたり、精励され成果を収めてこられたことに敬意を表します。今後のさらなるご活躍を期待します。』

事業報告では、乾燥施設等リース事業が終了となり、事業の精算と機械施設の譲渡処分を行ったこと。優良みやぎ材四千四百四十八立方メートルの認証と四百五十一件の県産材証明を行い、被災者百六十三棟を含む五百三十八棟の県産材利用エコ住宅普及促進事業住宅が建設されたこと。合法木材等供給事業者認定を進めるとともに、合法木材利用促進法（クリーンウッド法）

の普及広報に努めたこと。県外視察研修など教育情報事業のメニューを充実させたこと。新規のJAS構造材利用拡大事業で、幅広く地域材活用の普及PRを展開したことなど、決算については、ほぼ計画どおりの事業執行となったことが報告されました。

今年度の事業方針では、最終段階にある「東日本大震災の復興資材・県産材の安定供給」と追い風を活かす「地域材・CLT等木材利用の推進と木材産業の活性化」に向けた事業展開を図ることが決定されました。

重点事項は次のとおりです。

- ①優良みやぎ材など産地、品質の明確な県産材の生産供給体制の整備
- ②JAS認証工場の拡大
- ③人工乾燥材の生産拡大
- ④JAS構造材利用拡大事業・外構部の木質化対策支援事業の推進
- ⑤地域材を使用した木造住宅の建設促進
- ⑥CLTの普及促進
- ⑦合法木材供給の促進
- ⑧研修・セミナー等教育情報事業の推進

また、木材会館については竣工後、半世紀以上が過ぎ、設備等の老朽化も進んでいることから、会館のあり方や今後の取扱についての検討を始めることとします。

組合員の皆様の組合事業への積極的な参加とご協力をお願いします。

理事長就任のご挨拶 千葉 基



この度、理事長に就任しました株式会社チバミンの千葉基（もとい）でございます。大崎市古川の地で初代 啓治が

一八六五年（慶応元年）に創業以来、木材業に携わって百五十四年になります。

今、木材を取り巻く環境は大きく変化し新しい時代に入りました。在来木造住宅においても木の良さを活かしながらも、最も住み心地の良い住宅の提供が大きな課題となります。伝統的な技術を継続しつつ、ライフスタイルにあった木材の最適利用の工夫が求められております。また、中高層大規模木造建築を可能にしたCLTの活用、店舗・事務所等住宅以外への木造建築の普及促進など様々な課題があります。こうした新しい需要に応える能力も私たちは身につけていかなくてはなりません。

森林を安全に効率的に伐採し、その木材によって快適な空間を提供し、山に最適な植林を施す。この木材だからこそできる永続的な循環の確立が「令和時代の業界のテーマ」と考えます。そのために研修視察など人材育成を積極的に進め、組合員相互の、そして関連団体との連携強化に努めます。皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

令和元年度木材関係予算の概要

宮城県林業振興課

県では、今年度の木材関係予算に約五億円を措置し、林業の成長産業化に向けて、「県産木材の需要創出とシェア拡大」に重点を置いた事業を展開していきます。

▼あらゆる場面でCLTを活用

新たな木材需

要創出策として、引き続きCLTの活用・普及に取り組みます。

具体的には、CLT建築のトータルコスト低減実証事業をはじめ、非木造や戸建て住宅における活用、加えて、店舗や倉庫など画一的な建物でユニット化を試みるなど、あらゆる場面でCLTを活用する取組に支援の幅を広げ、県産木材の更なる利用拡大を図っていきます。



県内初の3階建てCLTパネル工法による建物

○ 新たな木材利用チャレンジ事業

(予算額…二千七百七十五万円)

○ CLT建築普及促進事業

(予算額…六千六百万円)

▼製材の効率化と品質向上に必要な施設整備を支援

木造建築を普及し、県産木材需要を拡大していくためには、ニーズにあった品質の高い製品を安定的に供給することが不可欠です。そこで、製材ラインの自動化や、木材乾燥などに必要な施設整備を支援します。

○ 林業成長産業化総合対策交付金事業

(予算額…四千九百九十二万円)

○ 合板・製材・集成材国際競争力強化対策事業

(予算額…千百三十五万円)

▼木質バイオマス利用の拡大

県内の木質バイオマス活用を更に拡大させていくために、地域の森林由来の木質燃料を活用した、中小規模の木質バイオマス活用施設導入に対する助成や、安定的な木質燃料調達を支援することにより、持続的な木質バイオマス利用の推進と、地域の計画的な森林整備促進、林地残材の有効活用を進めます。

○ 木質バイオマス広域利用モデル形成事業

(予算額…三千七百七十万円)

▼ICTを活用した原木流通の合理化

合板用原木の円滑な供給を実現し、県産木材の利用拡大を図るため、ICTを活用した素材流通ネットワークシステムの構築を支援します。

○ 素材新流通システム構築事業

(予算額…四百五十三万円)

▼県産材利用の普及・PR

六百棟分の予算を確保し、県産材使用の新築住宅に対する助成を実施します。

また、多くの県民が利用する店舗や道の駅などにおいて、県産木材を使用した内外装の木質化や、木製品導入の補助を行うほか、地域で「木育」活動を積極的に進めている民間団体を支援します。

○ 県産材利用エコ住宅普及促進事業

(予算額…三億八百九十九万円)

○ 木の香るおもてなし普及促進事業

(予算額…六百万円)

○ みんなで広げる「木育」活動推進事業

(予算額…百三十六万円)



仙台市中心部で行われた「木育」活動の様子

「県産材利用

エコ住宅普及促進事業」

宮城県林業振興課

県では、県産材をふんだんに使用した家づくりを普及するため、「県産材利用エコ住宅普及促進事業」により、県産木材の使用量にに応じて補助しています。

平成二十三年の事業スタート以来、これまで八年間に四千棟近い新築木造住宅に助成してきました。このうち、約六割に当たる二千三百棟は、東日本大震災による被災者が住宅再建に活用しており、本事業は県産材利用の促進に加え、震災復興支援の役割も果たしてきました。

▼宮城県産材の普及に寄与

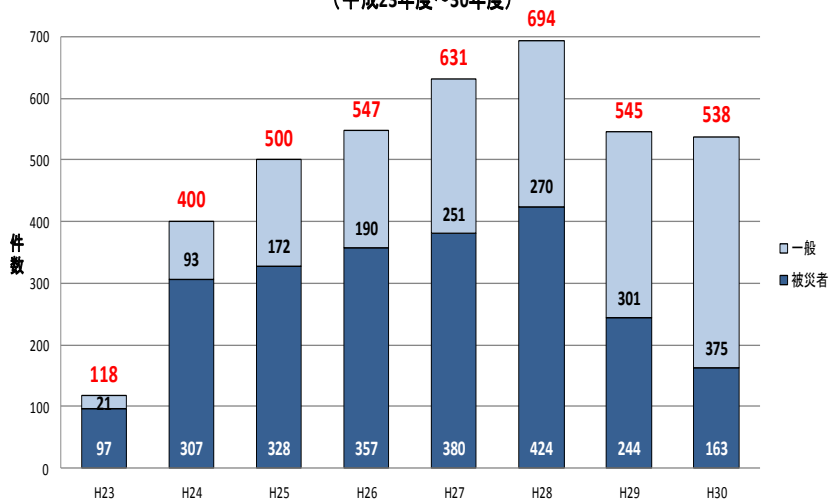
平成三十年度の事業活用棟数は、前年度とほぼ同数の五百三十八棟でした。一棟当たりの木材使用量は平均二十三立方メートルで、このうち約七割が県産材となっております。また、優良みやぎ材の使用量は過去最高の約五千立方メートルにのぼり、本事業の目的である一般住宅における宮城県産材利用の普及に大きく寄与しています。

▼被災者の住宅再建に貢献

次のグラフは、過去八年間の事業実績と一

般及び被災者の活用内訳を示したものです。多くの被災者に活用していただいております。事業を活用し累計で二千三百棟の被災者の住宅が再建されました。

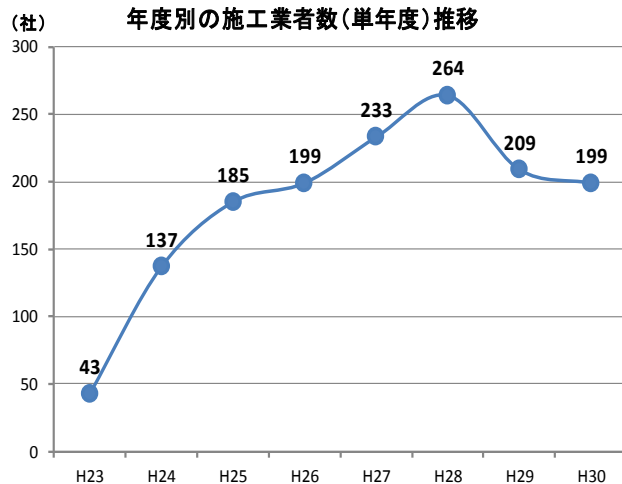
県産材利用エコ住宅普及促進事業の年度別申請件数
(平成23年度～30年度)



▼地元建築業者に県産材が浸透

次のグラフは、本事業を活用した住宅を建築した業者数の推移を示したものです。施工業者数は、毎年二百社にのぼり、多くの建築業者に県産材を活用していただいております。

年度別の施工業者数(単年度)推移



次の表は、平成三十年度に本事業を活用して住宅を建築した施工業者の数を、補助申請物件の施工

平成30年度に補助申請の物件を施工した業者数
(施工件数別)

| 施工件数 | 施工業者数 (占有率) |
|--------|-------------|
| 1件 | 116社 (58%) |
| 2件 | 37社 (18%) |
| 3～5件 | 30社 (15%) |
| 6～10件 | 9社 (5%) |
| 11～20件 | 3社 (2%) |
| 21件～ | 4社 (2%) |
| 合計 | 199社 |

物件の施工件数別に示したものです。施工件数が二件以下の業者が全体の四分の三を占めており、比較的規模の小さな工務

店等の方々にも本事業が定着し、幅広い住宅建築業者に活用されています。

▼補助申請を受付中

今年度も六百棟分の予算を確保して、県産木材を使用した新築住宅を予定している施主に対して、上限五十万円の補助申請を受け付けていますので、引き続き本事業のPRに御協力をお願いします。

CLT研究の今

宮城県林業技術総合センター

CLT(直交集成板)は、二〇一三年に日本農林規格(JAS)の制定、二〇一六年に材料強度と設計法の告示など普及に向けた制度が順次整備され、CLTを用いた建築物も国内で一二七棟(二〇一八年内閣府)、宮城県内八棟(二〇一八年宮城県林業振興課)と急速に普及しつつあります。しかしながら、材料である木材のCLTラミナとしての性能、これらを組合せたCLTの性能発揮のメカニズムがあまり明らかになっていないと言われると驚かれるかもしれません。

CLTの材料となる木材は生物材料であり、強度性能は強いものも弱いものもあります。

樹種により、また同じスギであっても丸太ごと、さらには丸太からのラミナの採材位置によっても強度性能が違います。これらは、ラミナを等級区分することでコントロールしますが、CLTラミナが備える強度性能は？ また、それらを組合せ設計したCLTの強度性能は？ となるとまだまだデータが不足していることから、CLTの強度性能値は最低限の安全側に設定されています。この強度性能値を引き上げることが建築設計の自由度を高めること、省資源や建築の低コスト化につながるかと考えられます。

宮城県林業技術総合センターでは二〇一七から一八年に、県産スギ丸太からCLTラミナを製造し性能を調査しました。また、これらのラミナを歩留まり良く利用し、組合せたCLTを製造し性能を調査しました。その結果、JASではスギ異等級構成CLTは原則としてMx60までしか認められていませんが、ワンランク上のMx90の強度性能の基準をクリアしました。このことは、宮城県スギの強度性能が優れているということのほか、現行のJAS基準が安全側になり過ぎ、もっと強い性能を付与できる可能性があることが考えられます。

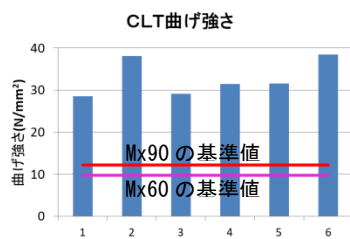
宮城県産スギでMx90の製造が可能であ

ることを広く認められるには、構成するラミナが普通に得られること、これらのラミナの強度性能がCLTを製造するのに十分であること、これらを組み合わせたCLTが設計計算どおりの強度性能を示すことが求められます。

今後も宮城県林業技術総合センターでは、宮城県産スギCLTの利活用促進に向けた研究に努めてまいります。組合員の皆様方にも御協力をお願いすることもありますので、その際はよろしくお願いします。



CLT曲げ強度試験状況



CLT曲げ強度試験結果

JAS構造材 個別実証支援事業

—非住宅建築に最大三千万円補助—

昨年度から始まったJAS構造材利用の補助事業が、今年度、要件の緩和や上限額の引き上げなど、より使い勝手が良いものとなっております。構造用製材、2×4製材、CLTを

使用した非住宅物件に一定額が補助されるものです。対象となる物件は未着工の店舗、飲食店、事務所、倉庫、工場、畜舎等の非住宅で住宅を兼ねる場合は住宅部分を除きます。

補助額は構造用製材・2×4製材は2階までは平方メートル当たり二千円、3階以上は四千円。CLTは立方メートル当たり十四万円。いずれも実際の調達費と比較して低い方の額が補助されず。構造用製材は、機械等級区分のみが対象でしたが、今年目は目視等級も加えられました。上限額は千平方メートル未満かつ3階まで千五百万円、千平方メートルまたは4階以上は三千万円。事業申請の締め切りは十二月二十日です。

詳しくは、「JAS構造材」で検索。

チェーンソーを使用して伐木等作業を

行方へー林災防宮城県支部ー

労働安全衛生規則が改正され、チェーンソーの業務に係る特別教育の統合及び保護衣着用義務付けなどの追加充実が図られました。

これにより、現行の特別教育修了者は全員、二時間の学科と三十分の実技からなる補講を受けないと、来年八月以降チェーンソー作業に就けなくなります。林災防では九月から県内各所で補講を行います。該当者は数千名にのぼるため、会員事業体を中心に広く開催案内を行いますので、是非近くの会場での受講をお願いいたします。

木造住宅コンクール 作品募集

今年で二十一回目と

なる県木協主催「みやぎ木造住宅コンクール」を開催いたします。

昨年平成三十年一月から今年九月までに完成する住宅を県内一円から募集します。募集期間は九、十月の二ヶ月間となります。関係者の奮っての応募をお待ちしております。詳細は改めて公表いたします。お問い合わせは組合まで。



昨年度の最優秀賞

経営セミナー受講費助成

昨年に引き続き、外部セミナーの受講費を助成します。左記により二コース予定しており、主催者はニュークリエイトマネジメント、場所は「みやぎ婦人会館」(仙台市)です。

費用は一人、一万二千円ですが組合から一万円を助成します。興味のある方は組合までお問い合わせ下さい。詳細をご案内します。

一「経営計画策定セミナー」

対象者 経営者、後継者、経営幹部

日時 十一月六日(水) 九時から十六時

二「コストダウンのすすめ方セミナー」

対象者 若手リーダー、中堅社員、幹部

日時 十二月四日(水) 九時から十六時

御寄付御礼

和泉 健雄様(石巻市)
どうもありがとうございます

新組合員の紹介
株式会社 早坂林業(加美町)
代表取締役 早坂 篤郎 様
どうぞよろしく願っています

令和最初の叙勲で亀山元理事長が受章されたことは、組合関係者にとって慶賀の至りです。また、新役員体制となり、令和と共に新たな出発でもあります。良いこと、新しいことはみんなを明るく元気にさせます。何か始めてみようかしらん。梅雨寒が続きます。皆様、ご自愛ください(好)



令和元年春の叙勲(五月二十九日)

旭日双光章

元理事長

亀山 征弘氏



宮城県中小企業団体中央会 会長表彰

役員功労(六月十八日)

前理事長

佐藤 豊彦氏



誠におめでとうございます